薬剤吹付け種子の作業手順（浸種～出芽）

テクリードＣまたはヘルシード吹き付け種子は消毒に必要な薬剤が籾の周りに付着しているだけで、消毒は完了していません。ポイントを確認して効果的に管理をしましょう。

薬剤吹付け種子 → 袋詰め

消　毒

清潔な環境で
フタをして管理

水温の徹底管理
平均水温12～15℃で
24時間浸漬する。

①**お湯**を使い**水温18～20℃**に調製する。
②薬剤吹付け種子の薬剤が溶け出すように、少し揺すりながら種子を投入する。
③**静置**する。
※１０℃以下では籾内部への薬液浸透並びに薬効が不十分になる。
※低温が続く場合は、浸漬時間を延長する。
※消毒期間中は**静置**する。**循環禁止！**

浸　種

重要

【留意点】
揃った芽揃いのためには、しっかりと浸種させることが不可欠です。例年の積算温度や日数だけでなく、籾の状態を必ず確認してください。例年よりも1～2日程度浸種期間に余裕をみてください。

平均水温12～15℃で7～10日間
2～3日ごとに水交換を。
※水交換時に籾の状態を見て、上下入れ替えを行う。
※浸種期間中も**循環禁止。**
※水量は、**水3.5ﾘｯﾄﾙ：籾1kg**を目安に。
籾がアメ色、籾殻が透けて胚芽が見えるようになったら浸種完了の合図

催　芽

重要

催芽水温は30℃のぬるま湯を厳守
催芽前に湯通し（36～40℃）することで均一なハト胸に。
32℃を超えるともみ枯れ細菌病発生の危険性高まる！
必ずハト胸状態を確認してから種まきする。

次の品種は芽が出にくい特性があるため、水温、温度管理を徹底し、より丁寧な浸種・催芽が必要です。

秋のきらめき（かなり難）、あきたこまちR（やや難）、ひとめぼれ（難）、サキホコレ（難）、
⚠必ず籾の様子を確認してください。

（　）内は「穂発芽性」を示します（秋田県稲作指導指針より）。

全ての病害防除は種子消毒から始まります。無消毒種子は必ず種子消毒を行いましょう。

JA秋田おばこ

無消毒種子での消毒作業手順（浸種～播種）

WCS、飼料用米を含めた全ての無消毒種子は

必ず種子消毒を行ってください。

無消毒種子 → 袋詰め

消　毒

種子消毒剤「テクリードCフロアブル」　200倍液

12～15℃で24時間浸漬する。

①**お湯**を使い**水温18～20℃**に調製する。※薬液調製が最初です。
②「テクリードCフロアブル」を投入し撹拌する。
③種子全体に薬液が馴染むように少し揺すりながら種子を投入する。
④**静置**する。
※１０℃以下では籾内部への薬液浸透並びに薬効が不十分になり、生育抑制などが生じる場合がある。
※低温が続く場合は、浸漬時間を延長する。
※消毒期間中は**静置**する。**循環禁止！**

浸　種

平均水温12～15℃で7～10日間

2～3日ごとに水交換を。

※水交換時に籾の状態を見て、上下入れ替えを行う。
※浸種期間中も**循環禁止。**※水量は、**水3.5ﾘｯﾄﾙ：籾1kg**を目安に。

籾がアメ色、籾殻が透けて胚芽が見えるようになったら浸種完了の合図

重要

【留意点】
揃った芽揃いのためには、しっかりと浸種させることが不可欠です。例年の積算温度や日数だけでなく、籾の状態を必ず確認してください。例年よりも1～2日程度浸種期間に余裕をみてください。

催　芽

重要

催芽水温は30℃のぬるま湯を厳守

催芽前に湯通し（36～40℃）することで均一なハト胸に。
32℃を超えるともみ枯れ細菌病発生の危険性高まる！

必ずハト胸状態を確認してから種まきする。

次の品種は芽が出にくい特性があるため、水温、温度管理を徹底し、より丁寧な浸種・催芽が必要です。

秋のきらめき（かなり難）、あきたこまちR（やや難）、ひとめぼれ（難）、サキホコレ（難）、

⚠必ず籾の様子を確認してください。

（　）内は「穂発芽性」を示します（秋田県稲作指導指針より）。

全ての病害防除は種子消毒から始まります。無消毒種子は必ず種子消毒を行いましょう。

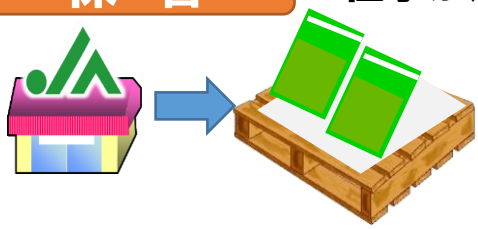
JA秋田おばこ

温湯消毒種子をご利用の皆様へ

温湯消毒種子は無菌状態の種子です。

保　管

種子が届いたら、清潔な場所で保管してください。



- 直接、地べたに置かない。
- ネット袋のまま置かない。
- 水に濡れず、ネズミ害などが無い清潔な場所で保管する。
- 日陰の涼しいところで保管する。

浸　種

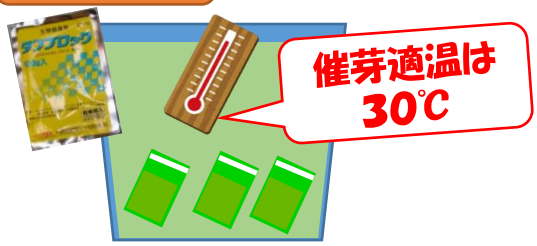
温湯消毒種子単独で行い、水交換は毎日してください。

温湯消毒種子以外の種子を同じ容器で処理してはいけません！

- 河川水などは雑菌等がいるため使用しない。
- 水道水か井戸水等の清潔な水を使用する。
- <u>他消毒方法の種子と同じ容器で浸種しない。</u>
- 水量は種子量の2倍以上で行う。
- 呼吸活動が活発のため、**水は毎日交換。**
- **浸種時の水循環は絶対に行わない。**
- 浸種水温は**12～15℃**の範囲で行う。
- 浸種場所周辺に籾殻等が無いように掃除。

催　芽

籾の状態を確認し、タフブロックとの組合せがオススメ。



- **催芽適温は30℃。**低すぎるとばか苗病、高すぎると細菌病を助長する。
- タフブロックは催芽直前か催芽時（循環OK）に行う。
- 芽の動きが早い傾向があるので籾をよく確認すること。

次の品種は芽が出にくい特性があるため、水温、温度管理を徹底し、より丁寧な浸種・催芽が必要です。

秋のきらめき（かなり難）、あきたこまちR（やや難）、ひとめぼれ（難）、サキホコレ（難）、
⚠必ず籾の様子を確認してください。

（　）内は「穂発芽性」を示します（秋田県稲作指導指針より）。

清潔な環境作りが健苗育成の近道です！

JA秋田おばこ